



第72号

平成14年3月6日

発行所 東京都東城
次城東明 5965

鯉淵学園同志会

〒319-0323 茨城県
鹿嶋市 3-1632番

印刷所 印刷

同志会会長再任のご挨拶

同志会長 高橋 隆三

去る十一月三日開催の第二十四回同志会大会において、本会会長に再選され引き続き会を代表することになりました。会員各位の皆様におかれましては、倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、我々の母校鯉淵学園は、四年制の農業・生活専門学校として着実な歩みをしておりますが、入学者数については、減少傾向にあり、状況次第によっては、存続の危機にもなりましょう。このような時期にあたり、本会としても組織を活性化し、会員相互の融和親睦をはかり、母校の発展貢献することが大切です。大会の議決事項を進めるにあたって所信の一端を記し、ご理解とご協力を重ねてお願いする次第です。

一、事務局長人事について

本宮好美(12期)氏は事務局長退任の意志が固く、平成十三年度をもって退任されました。慣れない中苦勞も多々在り、問題も山積して大変だったように思

います。その労に對し心から感謝の意を表します。

後任には住吉達男(17期)氏にお願いしたいと思っております。氏は本会副会長、東京支部支部長の要職にありますが、事務局長人選に当たって茨城支部に協力が得られない事もあり、また、氏が行った学生募集のための自主的な高校訪問等を通して学園教職員の人望も厚いこと、それに何よりも本人の快諾があります。常任委員会の同意を得る必要が在りますが、信任は得られるものと確信しております。

二、会費の納入について

近年、新卒業生の会費納入について、ご父兄にもご支援のご協力を願って終身会費の納入をお願いしてきました。辛いにして予想を上回る成果をあげることが出来、今後が期待できます。

会費納入状況について卒業期別概括すると、大先輩は納入率が高く年次経過とともに低下、53・54期に急上昇の結果を

生んでおります。

会員各位のご理解により、納入率の底上げを願って止みません。終身会費の納入基準額卒業後五年まで四万円、以降五年毎に二千五百円を減額、三十六年から二万二千五百円の制度により是非納入して下さい。

三、会員名簿の発行について

本会は五年毎に改訂版の発行を行ってまいりました。平成十四年末までに第十版を発行します。出版経費の関係から一回限りの調査票の配布調査となります。調査票が届きましたら必ず、郵便番号、住所、職業欄の確認、誤りは訂正頂きご返送下さい。そしてご予約下さい。

四、本部事務局事務室設置について

近く、学園の厚意により事務室の設置が現実の運びとなりました。場所は旧図書館の玄関を入って左側、旧学園長室として利用された部屋です。建物は古くなりましたが、書庫、事務机他調度品も整備して、事務の執務室としての利用ばかりでなく、学園を訪れる卒業生の休憩室(談話室)としての利用を考えています。是非母校にお立寄り下さい。

五、学園発展のための協力事業

① 学園募集・進路指導への協力

昨今、学生募集を取り巻く社会情勢は殊の外厳しく、事と次第によつては学園の存立をも危うくします。せめて最低でも、〇〇名の新入生が確保できるよう協力しようではありませんか。

本会は学園の要請に依りて、各支部より進路指導協力委員をご推薦頂き、被推薦者に対し学園から委員の委嘱をする方法で、就職活動への協力をしてまいりました。今後はこの動きを強化するとともに、加えて会報に卒業予定者の出身地、希望職種、就職希望地等を掲載して皆様のご協力を得たいと思ひます。

② 学園の試験研究活動に対する支援

平成十二年度以降協力してまいりました研究活動支援を今後も続けたいと思ひます。特定公益増進法人(寄付金が免税対象になる)指定要件を整えるために始まった募金活動が、真に学園の試験活動を支援する体制になりつつあります。11期会、沖繩九州県人会、9期小グループ親睦会の、口千円募金がそれです。学園の試験研究費は他の高等教育機関に比して極めて少額です。卒業生の継続的な支援はその意義について計り知れないように思ひます。ご協力をお願いいたします。

六、育林事業

昭和六十年四月二十二日、東京営林局長と分収造林契約を締結して十六年になります。総論賛成各論反対の意見の交錯する中で、必要最小限の管理撫育を実施してまいりました。分収林の現状は除伐と枝打が急務です。管理作業実施に当たっては、それらの全てを森林組合等の専門家へ委託せねばならず、経費も支出予

予算総額の10%が見込まれます。

わが国の国土の大半が山林でしかも木材の輸入量は世界一、そのため木材価格は低下して山林は荒廃、自然環境保護の立場からも山林の手入れが叫ばれ始めている昨今、本会としても進んで取り組む必要がありましょう。

以上、本会事業の取り組みについて申し上げます。この他にも本会組織の活性化、特に停滞気味の支部に対しては本部からの働き掛けを強めるなど努めて行きたいと思っております。よろしくご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第二十五回同窓会大会報告

第二十五回同窓会大会は、秋晴れの十一月三日、学園第五十五回学園祭が行われる中、三番教室で開催された。

大会は、高橋会長から挨拶に併せて提案された議案について充分ご審議をいただく旨の挨拶があり、引続いて来賓の農民教育協会木村春夫常務理事から協会への寄付及び福島啓史郎氏の支援の礼と併せて祝辞があり、穴戸弘明学園長からは、最近の学園の現況について、①少子化時代における入学の状況と学生募集について、②学生食堂の学園管理運営の経過、③学生食堂の生ゴミの堆肥化に伴う試験研究等々の報告を含めて、同窓会活動に対する期待と祝辞を賜りました。

大会人事

次の方々を選任、任命する。以下、敬称略

| | | |
|--------|-------------|------|
| 議長選任 | 堀田 弘 (15期) | 茨城支部 |
| 議事録署名人 | 中村 信夫 (7期) | " |
| 書記 | 浦井 義郎 (31期) | " |
| | 藤 徹 郎 (40期) | " |

平成12・13年度決算書

(平成11年10月1日から平成13年9月30日)

1 一般会計

収入の部

(単位：円)

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 増減 | 摘要 |
|-------|-----------|-----------|---------|---|
| 1 会費 | 6,000,000 | 5,883,000 | 117,000 | 年会費@3,000円*1,961人 内訳終身 1,271人 年会費 690人 |
| 2 寄附金 | 100,000 | 57,584 | 42,416 | 伊藤喜代治他 |
| 3 雑収入 | 320,777 | 38,059 | 282,718 | 預金利息 |
| 4 繰越金 | 479,223 | 479,223 | 0 | |
| 合計 | 6,900,000 | 6,457,866 | 442,134 | |

支出の部

(単位：円)

| 科目 | 予算額 | 決算額 | 増減 | 摘要 |
|---------|-----------|-----------|-----------|----------------|
| 1 会議費 | 950,000 | 1,084,395 | △ 134,395 | 大会、常任委員会費等 |
| 2 事務費 | 1,570,000 | 1,119,373 | 450,627 | 通信費、事務費、会報発送費等 |
| 3 事業費 | 3,650,000 | 3,705,343 | △ 55,343 | |
| (会報費) | 2,000,000 | 2,172,563 | △ 172,563 | 4回発行費 |
| (組織活動費) | 550,000 | 532,780 | 17,220 | 支部総会参加経費等 |
| (名簿調査費) | 100,000 | 0 | 100,000 | 名簿発行調査費 |
| (行動費) | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 事務局長行動費 |
| 4 分収林費 | 500,000 | 202,868 | 297,132 | 分収林調査費 |
| 5 負担金 | 130,000 | 157,130 | △ 27,130 | 農業大学校同窓会分担金 |
| 6 予備費 | 100,000 | 77,781 | 22,219 | 雑費 |
| 合計 | 6,900,000 | 6,346,890 | 553,110 | |
| 収支残高 | | 110,976 | | 次期繰越金 |

審議事項

一、第一号議案 平成十二・十三年度事業報告並びに決算の承認について執行部からの提案説明、梅崎監事から監査報告の後審議に入り、質疑応答の上、承認された。

二、第二号議案 平成十四・十五年度事業計画並びに予算について

従来の組織強化策の継続、定期的会報発行、分収林の管理活用の検討等を審議し、四項三号として、鯉淵学園の試験研究に対する支援、研究のための寄付を行うを追加し、すべての議案が承認された。

なお予算は、別掲「平成十四・十五年度予算書」のとおりである。

役員選出

役員推薦委員会を設置し、協議を行い、推薦委員会を代表して、事務局長から推薦会議結果を受け、全員留任の提案がされ、満場一致、別紙のとおり十四・十五年度の役員が承認された。

なお、大会席上会長から本宮事務局長が「身上の都合により「事務局長退任の意志表示」がされていることの報告があった。

懇親会

大会終了後、休憩を挟んで懇親会場へ移動し、学園教職員及び学生を交え、遠来の宮崎県支部長「阪衛克己氏（5期）」の乾杯発声で開宴した。

出席の教職員の自己紹介、学園応援団の応援披露と和やかな交流、更に茨城支部の大島武男氏（9期）のナン、宮崎の阪衛農園のミカンの差し入れもあり、鯉淵の秋の夜は懇親の輪広がるなか、七時過ぎ終宴した。

2 特別会計決算書

(単位：円)

| 科 目 | 前期末繰越金額 | 当期収入金額 | 当期支出金額 | 当期末繰越金額 |
|----------|------------|-----------|-----------|------------|
| 1 基本金会計 | 13,159,540 | 1,447,500 | 0 | 14,607,040 |
| 2 終身会費会計 | 17,342,000 | 5,110,000 | 3,813,000 | 18,639,000 |
| 3 五十年史会計 | 770,830 | 55,063 | 770,830 | 55,063 |
| 4 名簿金会計 | △ 914,536 | 693,000 | 0 | △ 221,536 |
| 5 仮受金会計 | 0 | 11,000 | 0 | 11,000 |
| 合 計 | 30,357,834 | 7,316,563 | 4,583,830 | 33,090,567 |

3 特別会計収支明細表

(単位：円)

| 科 目 | 収入金額 | 支出金額 | 摘 要 |
|-------------------------------|------------------------------|----------------|---|
| 1 基本金会計 | 1,447,500 | 0 | 今期入会金 |
| 人 会 金 人 会 金 | 765,000 682,500 | | 12年度新人生 102 * @7,500 13年度新人生 91 * @7,500 |
| 2 会 費 会 計 | 5,110,000 | 3,813,000 | |
| 終 身 会 費 年 度 会 費 | | 0 3,813,000 | 12・13年度 157人 |
| 3 五十年史会計 | 55,063 | 770,830 | |
| 販 売 代 金 | 55,063 | | 償却 |
| 4 会 員 名 簿 会 計 | 686,500 | 0 | |
| 販 売 代 金 販 売 代 金 販 売 代 金 | 357,000 318,500 17,500 | | 12年度学生 102 * @3,500 13年度学生 91 * @3,500 会 員 5 * @3,500 |
| 5 仮 受 金 | 11,000 | 0 | |
| 合 計 | 7,316,563 | 4,583,830 | |

平成14・15年度予算書

(平成13年10月1日から平成15年9月30日)

一般会計

収入の部

(単位：円)

| 科目 | 予算額 | 前年度予算額 | 増減 | 摘要 |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 会費 | 6,300,000 | 6,000,000 | 300,000 | 終身会費・年次会費 |
| 2 寄附金 | 100,000 | 100,000 | 0 | 寄付金 |
| 3 雑収入 | 50,000 | 320,777 | △ 270,777 | 預金利息 |
| 4 繰越金 | 110,976 | 479,223 | △ 368,247 | |
| 合計 | 6,560,976 | 6,900,000 | △ 339,024 | |

支出の部

(単位：円)

| 科目 | 予算額 | 前年度予算額 | 増減 | 摘要 |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 会議費 | 1,000,000 | 950,000 | 50,000 | 総会費・常任委員会 |
| 2 事務費 | 1,300,000 | 1,570,000 | △ 270,000 | 郵便代・事務費等 |
| 3 事業費 | 3,650,000 | 3,650,000 | 0 | |
| (会報費) | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 | 会報発行費 |
| (組織活動費) | 550,000 | 550,000 | 0 | 支部總會費 |
| (名簿調査費) | 100,000 | 100,000 | 0 | 名簿発行費 |
| (行動費) | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | 事務局長行動費等 |
| 4 分収林費 | 500,000 | 500,000 | 0 | 分収林作業委託費 |
| 5 負担金 | 0 | 130,000 | △ 130,000 | 関係機関連絡費 |
| 6 予備費 | 110,976 | 100,000 | 10,976 | |
| 合計 | 6,560,976 | 6,900,000 | △ 339,024 | |

鯉淵学園同窓会 平成14・15年度役員名簿

| 役職 | 氏名 | 卒期 | 支部 |
|-----------|-------|----|-----|
| 会長 | 高橋隆三 | 9 | 茨城県 |
| 副会長 | 倉重一夫 | 11 | 〃 |
| 〃 | 住吉達男 | 17 | 東京都 |
| 副会長兼常任委員長 | 山本英治 | 31 | 茨城県 |
| 監事 | 梅崎孝臣 | 13 | 〃 |
| 〃 | 伊藤喜代治 | 26 | 東京都 |
| 〃 | 涌井義郎 | 31 | 茨城県 |

鯉淵学園総合研究（環境保全・循環型農業の実証研究）の十三年度研究成果中間報告会及びシンポジウムを開催

環境保全・循環型農業実証研究連絡会委員長
農業経営科学科教授 土崎常男

同窓会報第69号でお知らせしましたよ

うに、十三年度から鯉淵学園が、体となつて、研究期間十一年の長期大型総合研究（環境保全・循環型農業の確立のための実証的研究）が始まりました。それに伴い同窓生の皆様にこの研究に対する支援のご寄付をお願い致しました所、多くの同窓生の皆様から続々とご寄付を戴きました。心から御礼申し上げます。

十三年度取り組む課題は以下の十一小課題で、平成十三年九月二十五日に研究成果中間報告会を開催しましたが、研究は概ね順調に進行しております。なお、中間報告会と同時に、勉強会としてシンポジウム（食品廃棄物の堆肥化及び飼料化の現状と問題点）を開催致し、熱心な討議が行われました。

研究小課題及びシンポジウムの講演課題は以下の通りです。

1 十三年度実施研究小課題

(1)畜産廃棄物の環境保全・循環的処理及び利用法の実証的研究（中課題1）

(1)家畜排せつ物の堆肥化ならびに処理方法に関する調査・研究（13～15年）

(肉牛研、畜産農場)

(肉牛研、畜産農場)

(2)食品廃棄物の環境保全・循環的処理及び利用法の実証的研究（中課題2）

①栄養管理方法と食堂廃棄物の産出の実証的研究（13～17年）（調理・食生活研、学生食堂）

②食堂廃棄物の有機質資材作製システム構築の分析と課題（13～14年）（研修科、学生食堂）

③食堂廃棄物（生ゴミ）の発酵処理物の野菜育苗用土化に関する実証的研究（13～14年）（野菜研、土壤肥料研、学生食堂、園芸農場、研修科）

④食堂廃棄物発酵資材（生ゴミ・ホカシ）と他の発酵肥料（研修科製法ホカシ）及び化成肥料との差異分析及び利用法の検討（13～15年）（研修科、野菜研）

⑤食品廃棄物の利用による肥育豚の実証的研究（13～15年）（肉牛研・農畜産物加工研・調理食生活研・学生食堂）

(3)環境保全・循環的農作物栽培技術及び家畜飼育技術の実証的研究（中課題3）

①環境保全・循環型農法としての野菜の不耕起栽培に関する研究（13～17年）（野菜研）

②鯉淵学園における環境保全型農業の実態調査（13年）（作物研、園芸農場、畜産農場）

③茎頂培養による作物ウイルス病の環境保全的防除法の実証的研究（13～14年）（生物工学研、作物保護研）

④鯉淵学園における農業・食・環境の循環システムの構築と分析（中課題4）

①湖沼におけるアオコの発生状況の調査研究（13～14年）（生化学研）

②鯉淵学園における落ち葉、草木灰、食堂廃棄物の年間算出量及び利用量の調査（13～16年）（研修科、学生食堂、農場）

③鯉淵学園における環境保全型農業の調査研究（13～14年）（野菜研、土壤肥料研、学生食堂、園芸農場、研修科）

④食堂廃棄物発酵資材（生ゴミ・ホカシ）と他の発酵肥料（研修科製法ホカシ）及び化成肥料との差異分析及び利用法の検討（13～15年）（研修科、野菜研）

⑤食品廃棄物の利用による肥育豚の実証的研究（13～15年）（肉牛研・農畜産物加工研・調理食生活研・学生食堂）

(3)環境保全・循環的農作物栽培技術及び家畜飼育技術の実証的研究（中課題3）

①環境保全・循環型農法としての野菜の不耕起栽培に関する研究（13～17年）（野菜研）

②鯉淵学園における環境保全型農業の実態調査（13年）（作物研、園芸農場、畜産農場）

③茎頂培養による作物ウイルス病の環境保全的防除法の実証的研究（13～14年）（生物工学研、作物保護研）

④鯉淵学園における農業・食・環境の循環システムの構築と分析（中課題4）

①湖沼におけるアオコの発生状況の調査研究（13～14年）（生化学研）

②鯉淵学園における落ち葉、草木灰、食堂廃棄物の年間算出量及び利用量の調査（13～16年）（研修科、学生食堂、農場）

③鯉淵学園における環境保全型農業の調査研究（13～14年）（野菜研、土壤肥料研、学生食堂、園芸農場、研修科）

④食堂廃棄物発酵資材（生ゴミ・ホカシ）と他の発酵肥料（研修科製法ホカシ）及び化成肥料との差異分析及び利用法の検討（13～15年）（研修科、野菜研）

⑤食品廃棄物の利用による肥育豚の実証的研究（13～15年）（肉牛研・農畜産物加工研・調理食生活研・学生食堂）

(3)環境保全・循環的農作物栽培技術及び家畜飼育技術の実証的研究（中課題3）

①環境保全・循環型農法としての野菜の不耕起栽培に関する研究（13～17年）（野菜研）

2 シンポジウム講演課題

①浦井義郎・及川隆光（農業経営科学科・研修科）：食品廃棄物の堆肥化

②山本英治（農業経営科学科）：食品廃棄物利用による豚の肥育試験

③金子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

④余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑤余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑥余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑦余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑧余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑨余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑩余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑪余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑫余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑬余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑭余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑮余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑯余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑰余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑱余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑲余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

⑳余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉑余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉒余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉓余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉔余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉕余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉖余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉗余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉘余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉙余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉚余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉛余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉜余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉝余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉞余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

㉟余子順・（櫛ジョナサン）：外食産業における食品廃棄物対策

学園の近況報告と学生募集協力をお願い

教務部長 安藤義道

借菜園の梅祭のシーズンになりました。また、この時期は受験シーズンでもありますが、みなさんの身のまわりではいかがでしょうか。

学園では昨年、学生募集改革の一環として高校生のオープンニングキャンペーンと九州入試の導入を図りました。前者は高校生に学園教育の一端をみてもらって、受験の参考にもらおうという試みです。八月十四日に開催しましたが、保護者を含めて五十名を越す参加者があり、ますますの成功でした。9日は農場の夏期実習と例年実施している海外研修（アセアン研修）中でしたが、これらも学園の様子をみてもらうのには効果的でした。後者は遠方でありながら入学生志願者の比較的多い九州・沖縄向けに鹿児島県での試験実施の試みで、十二月十二日に「A鹿見島県会館」で実施しました。幸いどちらも功を奏して、オープンニ

支部・同期の動向

茨城県支部総会開催される

茨城県支部長 倉重 一夫

十一月三日十一時より茨城県支部総会が開催されました。

平成十年から県内の卒業生が八〇〇名を越したことから卒業期別代議員総会制に規約を改正し対応しています。

代議員は各卒業期別に選出され第一期生から54期生まで参集する予定でしたが、この日は各地域での行事が重なって出席者が少なく残念でした。

今後代議員に置かれましては万難を排して出席をお願いいたします。本人が出席出来ない場合は、代理人の手配をお願いいたします。

総会は会長挨拶、来賓として高橋隆三同窓会会長の挨拶をいただき書記、志賀陸男氏(11期)、議事録署名人、根本保夫氏(25期)を任命。議長には内田貞明氏(17期)を選出して議事に入りました。

第一号議案、平成十一年・十二年事業報告並びに会計報告が提案され原案どおり可決されました。

続いて第二号議案平成十四年・十五年事業計画並びに収支予算が付議されました。この案件も原案通り可決されましたが、特記する主な計画を報告いたします。

①同窓会本部活動への協力
地元支部として同窓会本部に七名の常

任委員をおくり本部活動を強化します。

常任委員

倉重・夫氏(11期)、真下寿宜氏(11期)

本宮好美氏(12期)、梅崎孝臣氏(13期)

稲川正夫氏(13期)、須田哲也氏(16期)

根本保夫氏(25期)

◎会員の活動事例の紹介

卒業生の優良活動事例を紹介し稼働奨励に資する対策を強化します。

◎支部財政の確立

終年会費は五千円です。

支部財政を確立するため、期別代議員は同期生に納入を促進願います。

第三号議案、役員改選について

十四年・十五年役員が決定しました。

支部長 倉重 一夫(11期)

副支部長 市野沢 弘(10期) 県北地域

副支部長 真下 寿宜(11期) 県央地域

副支部長 野原小石(11期) 鹿行地域

副支部長 寺田 忠啓(22期) 県南地域

副支部長 稲川 正夫(13期) 県西地域

監査委員 梅崎 孝臣(13期)

監査委員 新地 通哉(13期)

支部会費納入のお願い

毎年納めていた会費を一回に納める終身会費に換え会費の値下げを行いました。

支部財政を確立するため未納者解消運動を行います。期別代議員の皆さんは同期の皆さんに納入をお願いしてください。

内原町郵便局

納入先 鯉淵学園同窓会茨城支部

口座番号 〇〇七〇〇一〇九二七

〇〇七〇〇一〇九二七

〇〇七〇〇一〇九二七

〇〇七〇〇一〇九二七

ゲキャンパスの参加者が多く推薦入学に

応募してくれて、農業経営科学科で二

名、生活栄養科学科で二九名の応募者が

得られました。また、九州入試では一

名(うち五名は編入学者)もの受験があ

りました。月末の時点で、一般前期試

験までを終えています。農業経営科学

科で四三名、生活栄養科学科で三九名と

合わせて八二名の応募がありました。こ

れは昨年の応募とほぼ同数です。しかし、

定員の二〇名にはまだまだ届いており

ません。特に農業経営科学科は定員が八

〇名で、未だ定数の半分という状況です。

教職員を中心に、茨城県内の高校を再度

学生募集で巡回したり、募集要項を重点

校を中心に、一五〇〇部余り再度配布した

り、また雑誌新聞に広告を出したりと募

集活動にあたってはありますが、せひとも卒

業生のみなさんからも一層のお力添えを

頂ければと思います。できるかきりのご

期待に添いたいと考えておりますのでよ

ろしくお願いいたします。現在の募集は次の

通りです。

一般中期試験：締め切り三月二十一日

試験日三月二十一日

合格発表三月二十七日

試験日三月二十七日

合格発表三月二十五日

試験日三月二十日

合格発表三月二十日

試験日三月二十日

合格発表三月二十日

試験日三月二十日

合格発表三月二十日

試験日三月二十日

| | |
|------|-------------|
| 2期生 | 山崎 昭二 |
| 5期生 | 砂田 義雄 |
| 6期生 | 立原 徳治 |
| 8期生 | 須崎 智久、栗原 満史 |
| 9期生 | 篠崎 芳三 |
| 10期生 | 大島 武男、高橋 隆三 |
| 11期生 | 青木 啓、田所 守 |
| 12期生 | 藤田一三三 |
| 13期生 | 市野沢 弘、甲高 博雄 |
| 14期生 | 真下 寿宜、倉重 一夫 |
| 15期生 | 野原小右二、吉川 昭雄 |
| 16期生 | 佐藤 昭八、大都 博海 |
| 17期生 | 大武 克也、志賀 陸男 |
| 18期生 | 野内 甲子 |
| 19期生 | 本宮 好美、櫻村 清三 |
| 20期生 | 若林 均 |
| 21期生 | 梅崎 孝臣、新地 通哉 |
| 22期生 | 稲川 正夫、南 一郎 |
| 23期生 | 浅田 昌男 |
| 24期生 | 鈴木 広美 |
| 25期生 | 内田 貞明 |
| 26期生 | 山口 功、森島 保勝 |
| 27期生 | 山本 公徳 |
| 28期生 | 加藤 満、大竹 利一 |
| 29期生 | 寺田 忠啓 |
| 30期生 | 根本 保夫 |
| 31期生 | 鈴木 利通 |
| 32期生 | 山本 英治 |
| 33期生 | 大島 実 |
| 34期生 | 吉川 桜 |

京都府支部総会を開催

京都支部長 竹村 洋一（19期）

十月二十七日（土）夜久野町の「農匠の郷」において支部総会が開催されました。府下各地から一八名が出席し、議長に2期の金田さんを選び、議事が進められました。

藤井支部長（4期）の挨拶に続いて事業報告、会計報告が行われ、若干の質疑があり、会計については一定の整理を行うこととして了承されました。事業報告では、鯉淵学園学生の府下での研修協力、後輩進路支援活動、本部同窓会からの募金・その他の協力依頼への対応などの報告がありました。

会計について、担当を規約上位置付けること、会計年度を明記することが決められ、文章は新役員で整理することになりました。

その後、新役員の出選に移り、支部長からの推薦のほか、規約にある顧問の設置についての提案があり、次の通り決定しました。

新役員 顧問 稲上 知（1期）

支部長 竹村 洋一（19期）

副支部長 岡本 嘉明（21期）

会計 岡井 明美（24期）

幹事（地区ブロック） 廣瀬 絹代（30期）

南丹

加藤紀一郎（18期）
中丹
安井 利幸（26期）
丹後

京都南部は支部長が併任

〈岡本農場を見学〉

総会に先立ち、21期の岡本さんが経営するプロイラー養鶏場を見学しました。プロイラーは出荷後のため施設見学となりました。

二百坪の鶏舎は、換気、給餌、給水がすべて自動化され、ヒナ用加湿器も配置されています。

これにヒナ一五、〇〇〇羽を入れて五五日間飼育し出荷するそうです。途中三、〇〇〇羽が間引き出荷されます。これは安いファミリーレストランなどで使われるようです。

「全自動化されて岡本さんは何をやるの」との声が出ていました。経営に努力されているのです。

〈農匠の郷の施設 見学・懇親会〉

総会の後、少しの時間を利用して農匠の郷の施設見学を行いました。郷には、ベコニア園、菓子子の里、茶

室など多くの施設がありますが、特に「木と漆の館」では茶器などへの漆の絵付けに挑戦している姿が見られました。その後、懇親会です。鯉淵時代のことや近況を話しながら和気あいあいと時間を過ごしました。次回は誘い合って多数の参加が期待されます。



2001年10月27日（土） 於 京都府夜久野町「農匠の郷」
前列左から 足立(7)、和田(9)、竹村(16)、吉田(17)、森田(17)、広瀬(30)
後列左から 加藤(18)、安井(26)、岸本(11)、公庄(11)、稲上(1)、藤井(4)、竹村(19)
金田(2)、上山(13)、岡本(21) ()は卒業期



群馬県支部総会開催

群馬支部長 松井孝司(24期)

六月二十二日(金)伊香保温泉「森秋旅館」において、支部大会が開催された。県内各地から二六名の参加者、期別では6期から50期までの歴史を感じさせる

参加を頂くとともに、学園からは山本英治助教・同窓会副会長兼常任委員長の御臨席を頂き、学園の近況や学生の動向ならびに同窓会本部の取り組み等を御報告頂き、意義ある支部大会となった。更なる支部活性化に向けた体制整備を目標に閉会した。

鹿児島県支部総会報告

支部長 平川康興(15期)

十二月二十二日(土)鹿児島市「鴨池ACCアネックス」において、会員二七名、学園から三名の先生(安藤・川井・山本(英))に出席頂き盛大に開催した。



神奈川県支部総会

神奈川県支部総会が平成十三年十月二十日、横浜市内「ホテルリッチ横浜」で開催され、一四名が出席しました。

鈴木副支部長の挨拶があり、

夏に惜しくも北村支部長(2

期卒)を失い、支部緊急の事

態に至っていることから支部

体制立て直しの提案が行われ

ました。これにより支部体制

について協議要請があり、出

席者により役員の改選が行わ

れ決定しています。

続いて同窓会派遣の高橋会

長から鯉淵学園ならびに同窓

会活動の近況報告があり、久々

の話題に関心が集まりました。

何年かぶりの支部総会でもあ

り、話題も多く、盛り上がった懇談会となりました。

新役員紹介(役職、氏名、卒期)

支部長 鈴木 昭司(11)

副支部長 志村 隆(23)

副支部長 麻生 哲也(38)

事務局長 笹島 竜生(47)



写真紹介

後列左から 矢作(66)、小澤(66)、西脇(11)、芹沢(3)、森田(3)
山岸(15)、中村(4)、汐満(14)、志村(23)、笹島(17)
前列左から 鈴木(11)、岡川(3)、高橋会長、川島(3)

約三年ぶりの開催であったが、学園の入学選考試験日に合わせて開催し先生方も来鹿される旨を予め通知したこともあって、ご出席の先生方から直接教えを受けた30期卒以後の若い同窓生も多く出席して頂き、支部活動活性化の面からも意義ある支部総会となった。

また、当日の協議で同窓会への「会費延納の解消に努めること」を申し合わせると共に「学園(関係)に対してさやかながら三万円の寄付をする」ことになった。

なお、今回の支部総会において役員改選が行われ、以下の通りである。

支部長 平川 康興(15期)
副支部長 溝口 道寛(19期)
幹事兼事務局長 川本 昭司(24期)
幹事 内 勝史(52期)

13期生同窓会を宮崎県で開催

十月二十日、二十一日の二日間にわたり、宮崎市の「青島サンクマール」で二名（うち六名は夫人同伴）が参加して盛大に開催した。卒業して初めて出席した人もあり、鯉淵長屋での生活に話しが弾み深夜までの懇親会となった。

鞍田先生の教え、思想が我国の農業に反映されていない。我々同志の責任は大であるとの、きびしい意見も出て、出席者一同反省の場面もあった。

でも終始、学園生活に戻っての、なごやかな会場であった。次回岩手での開催を決め、再会を誓って二日間の楽しい集いは終了した。

文責 興梠 善彦（13期）宮崎県



同窓会会費納入促進について（お願い）

日頃から同窓会活動につきまして格別なるご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、同窓会活動も新しい年度の14・15年度に入り、事業活動方針に基づき活動を開始しましたが、具体的な活動に入りますと常に財政問題が生じて参ります。別表都道府県別会費納入状況表を見ましても、納入率が三〇%を割る状況で、このままだと今後の活動に支障を来たす状況であります。

つきましては、同窓会の財源強化を計り、今期年度の活動を円滑に行うため、会費納入の促進強化を計りたいと思

鯉淵学園同窓会 会長 高橋 隆三

五十嵐直樹氏（48期）福島県喜多方市

第42回福島県農業賞

（農村青年活動部門・新規就農の部）受賞

第42回 福島県農業賞表彰式



会津いいでのアスパラガスを日本一の産品に育て上げた業績が認められた。

次は農業経営部門での受賞を狙うと抱負を語る。因に直樹君のお父様は県立高校の先生（進路指導担当）で在られ、鯉淵学園の良き理解者であることを併せて報告致します。

（文責 山本 英治）

終身会費納入区分表

| 卒業後経過年数 | 金額（円） |
|---------|--------|
| 1～5年 | 40,000 |
| 6～10年 | 37,500 |
| 11～15年 | 35,000 |
| 16～20年 | 32,500 |
| 21～25年 | 30,000 |
| 26～30年 | 27,500 |
| 31～35年 | 25,000 |
| 36～ | 22,500 |

いますので、貴支部総会、地区の集い、地区同期会等あらゆる機会に会費（終身会費または年度会費）の納入、促進をお願い申し上げます。なお、年度会費は、一、五〇〇円、終身会費は別表のとおりです。